

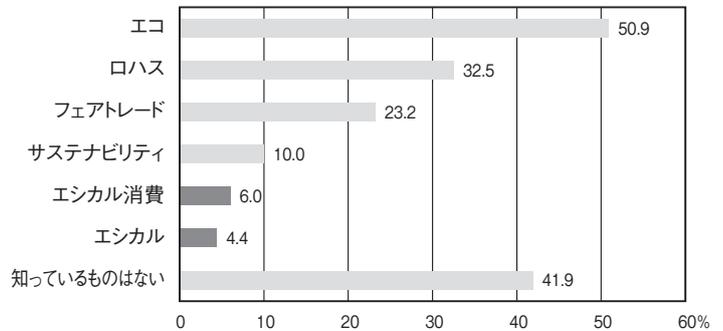
「エシカル消費」

本年4月、消費者庁が関連報告書を発表したことにより、マスコミに取り上げられることも増えた「エシカル消費」について解説いたします。

1. 「エシカル消費」とは？

「エシカル (ethical)」とは「倫理的な」という意味で、消費者庁はエシカル消費を「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動」と定義しています。1989年に英国で専門誌「Ethical Consumer」が創刊されたことを機に、用語として認知されるようになったものの、わが国において消費者庁が2016年に行った意識調査における認知度は1割程度でした。

「エシカル消費」などの用語についての認知度（複数回答）



2017年4月 消費者庁「『倫理的消費』調査委員会 取りまとめ」より

2. どのような消費が「エシカル消費」になる？

私たちは食べ物を食べ、衣服や電化製品を購入するなど、日常的に多くの消費活動を行っています。一方、それらがどこで、誰によって、どのようにつくられたか、考えたことはあるでしょうか？ 例えば、私たちは木綿製の衣服を着ますが、原料となる綿花の栽培を行う開発途上国では、使用される大量の農薬による健康被害を受けている人々が何万人と存在します。しかもそこには児童労働や労働搾取（わずかな対価しか支払われない）などの問題もあります。私たちの日々何気ない消費活動が「貧困問題」「人権問題」「季候変動」など、世界レベルで問題となっていることに直結するのです。

国際的な話となると何やら難しい感じもしますが、一般社団法人エシカル協会は、エシカル消費の理念を「自然環境を損なわない」「社会の悪（児童労働や労働搾取など）を助長しない」「地域社会、地域経済を損なわない」と定めています。すなわち、環境に配慮した製品（オーガニック製品、省エネ製品、リサイクル商品など）、人・社会に配慮した製品（フェアトレード*製品、障害を持つ人たちが作った製品など）、地域に配慮した製品（地産地消、災害被災地で生産された製品など）を利用することなどがエシカル消費となります。LED電球に交換する、オーガニック素材の衣服を購入するなどの他、賞味期限の近い商品を購入したり原発事故の風評被害に苦しむ福島県産の食材を積極的に購入したりするのも「エシカル消費」です。意識していないだけでエシカル消費を行っていることも意外に多いと思います。一歩進んで、今後は常に「エシカル」を念頭に行動してみませんか！

*フェアトレード：開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み（フェアトレード・ラベル・ジャパン）

閑話ひとつ

- ▶ 1985年に初公開された映画「バック・トゥー・ザ・フューチャー」は、マイケル・J・フォックス演じる主人公マーティが、親友の科学者ドクにより開発されたタイムマシン「デロリアン」に乗ってタイムトラベルするストーリーで、ご覧になられた方も多いでしょう。
- ▶ そのシリーズ3作目では、1985年に生きるマーティが1955年当時のドクと、故障したマシンの部品を見ながらこんな会話をしています。

ドク「この小さなIC回路が故障の原因だ…やっぱり“メイド・イン・ジャパン”だ」

マーティ「ドク、日本の製品は最高だぜ」

ドク「信じられん…」
- ▶ 詳しい状況説明は省きますが、この場面のポイントは、1955年当時に粗悪な安物を意味した“メイド・イン・ジャパン”が、30年後には高品質・高信頼の代名詞となっていることで、同じ言葉でも時代によって全く意味が異なってしまうという、2人の認識のずれが面白さを演出しています。
- ▶ ICT・IoTなど、世の中の技術革新は私たちが考える以上に加速しています。30年後には映画と同じことが他の“メイド・イン・〇〇”に置き換えられているのかも知れません。 (MK)